

令和8年度第1回まんが王国・土佐推進協議会 総会概要

日 時：令和8年9月11日（金）13:30～15:10

場 所：新来島高知重工ホール（高知県立県民文化ホール）

第6多目的室（オンライン併用）

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員15名（うち3名は代理参加）、監事1名、
オブザーバー1名

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）議事

次の議案について事務局から説明があり、承認された。

第1号議案 令和7年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第2号議案 令和7年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算報告

（4）報告事項

次の報告事項について、事務局から説明が行われた。

第1号報告 第35回全国高等学校まんが選手権大会（まんが甲子園）事業実施報告

第2号報告 高知まんがBASE R9年度以降のあり方について

（5）協議事項

次の協議事項及びその他について、事務局から説明の後、意見交換が行われた。
来年度のまんが甲子園について

（6）その他

次の事項について、事務局から説明の後、意見交換が行われた。
まんが甲子園第35回記念企画展について

（7）閉会

第2回総会は、令和9年2月に開催を予定。

第1号議案 令和7年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第2号議案 令和7年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算報告

<事務局より説明>

<質疑応答>

【中川委員】

○親子まんが教室やまんが塾は、著名な先生に依頼しているが、結果減少している。
まんが甲子園に注力しすぎとは言わないが、まんが事業の全体構成はどうなのか。
将来的にまんが・アニメコースが公立校にできるので、幼少期からの興味付けという意味でも教育委員会と連携し、県内小中高校のまんがクラブなど文化系のクラブにも周知を行っていただきたい。
実施日時についても、PDCAを回して取り組んでいただきたい。
こういった取り組みが裾野を広げていくと思う。

【くさか委員】

○まんが塾は、他のまんがのイベントと異なり、本気でまんが家になりたい人に限定している。
多くは、まんが家を目指すというよりは、好きなキャラクターを描いたり、イラストを描きたい人がほとんど。
今年は、「やっと中学生になったので参加できた」という本気でまんが家になりたい人が参加した。
敷居が高いので、幅広く実施するのは難しい。

【中川委員】

○まんが塾を小学生から実施するという、幅の広げ方もあると思う。

【吉村委員】

○まんが塾、親子まんが教室の参加者数が減っている理由は解明できているか。
(事務局)
分析が不十分なため、しっかり分析を行い、まんが塾、親子まんが教室等の展開を検討する。

【中川委員】

○丸の内高校にまんが・アニメコースができるので、まんが塾や親子まんが教室、高知まんがBASEを活用することで、最終的に、そのコースに行きたくなるような

若者を育てることや、次の取り組みに繋げていくためにも、今減少した参加者をどのように増やすのか分析を絶対に行うべき。

(事務局)

丸の内高校にできるまんが・アニメコースに繋がる取り組みとして、高知まんがB A S Eの取組の説明を後ほど行う。

【山口委員】

○「ちいかわ」はまんがか。キャラクターか。

1年間に1回だけ高校2年生に講義を行っているが、今の高校生でまんが家になりたい人は時代の流れもあるだろうが皆無。キャラクターデザイナーになりたい方はたくさんいる。

やなせ先生は、キャラクターデザイナーの草分けだと思う。

まんがといっても時代の流れとともに、なかなか理解できない時代がやってくる。

「まんが」より「キャラクター」という言葉になじみがある時代がやってくると思うので、視線を変えて、まんが甲子園もやっていかないといけない。

審査員に関しても別の視点で見られる人を入れるなど、イノベーションを起こしていかないと行けない時代に来た。

<委員一同承認>

第1号報告 第35回全国高等学校まんが選手権大会(まんが甲子園)事業実施報告

<事務局より説明>

<質疑応答>

【くさか委員】

○自分としては、物足りなく感じた。甲子園という戦いの場という感じではなかった。

2日目の最初にノミネートの発表を行ったので、山場を作り損ねた感があった。

生徒や引率の先生から出てきた意見を参考にするしかないと思うが、他にどんな意見があったか。

(事務局)

大会運営に関する生徒と引率者の先生にアンケートを実施した。1日がよかった意見としては、以下のとおり。

- ・体力の負担が少なく、パフォーマンスがよかった
- ・休憩時間・自由時間が取れて交流も楽しめた
- ・一発勝負で緊張感があった

2日がよかった意見としては、以下のとおり。

- ・ 2回チャンスがある
- ・ 1日目の反省を活かして2日目に臨むことができ、成長が期待できる

その他の意見としては、以下のとおり。

- ・ 複数のイベントに参加して疲労感があつた
- ・ ルールの説明が不足していたのではないか

競技を1日にした理由は、昨年の受賞取消で審査の見直しが必要だった。審査時間の確保、検索スタッフによる検索など審査を丁寧に実施する必要があることが前提。今大会は、昨年のような問題は起こっていないので、ご意見は参考に検討させていただくが、1日を2日にするのは今の段階では難しい。

○審査に関しては、後ろの時間を気にしないで、じっくりできたので、審査員としてはやりやすかった。

事前に審査員からの要望で、生徒が審査員に作品に関する講評時間を設けていただいた。本当にたくさんの学校が講評を聞きに来た。

講評の時間は非常に大事な時間だと感じたので、演出面や組み方等で熱くなれる大会であればいい。

(事務局)

来年の運営は、盛り上がりや熱くなれる瞬間をどのように作っていくか、生徒の気持ちに立って検討する。

【吉村委員】

○今年のまんが甲子園の演出はがらりと変わった。

ステージ上の見栄えと、競技としての生徒の環境は異なるので、できればもっと生徒の声を聞きたかった。

○アンケートの件だが、初参加の学校が多く、2日間の競技を経験した生徒が少ないので、1日のみの競技と2日間の競技の感想を比較するのは難しい。

顧問の立場と生徒の立場も異なる。

【くさか委員】

○昨年のまんが甲子園でスカウトされた生徒がプロのまんが家になり、今年のまんが甲子園にも予選を通過し、本選出場を果たしたという驚くことがあった。

【山根委員】

○今年の運営はよかった。

1日で競技が済むことは、生徒たちにとっては伸び伸びとできて、気が楽だったと思う。また、講評を聞くなど、審査員と生徒が話せたこともよかった。

○審査の前に検索スタッフが調べてくれたのも、とてもよかった。これからも続けてほしい。審査員も一生懸命調べるが、非常に助かった。

- まんが甲子園参加者の生徒の中からプロが出たことが非常に嬉しい。
まんが家になることは非常に難しいが、これからもそういう生徒が出るように皆さんのご協力をお願いしたい。

第2号報告 高知まんがBASE R9年度以降のあり方について

<事務局より説明>

<質疑応答>

【今城委員】

- 令和10年度に、丸の内高校にまんが・アニメコース、多文化共生コースの設置準備を進めている。
今年度から丸の内高校に準備室を設置し、教育課程の組み方や、先進的な取り組みを行っている所への視察などにより、骨格を作っているところ。

【山口委員】

- コース名について、もっと広い意味で、キャラクターを作るなど、名前から再考できないか。
○Macは使いこなせないといけないし、就職するにはイラストレーターを使いこなす能力は必須である。
就職を目指すのであれば、もっともっと技術を磨かないといけない。

【西山委員】

- デジタルアーツとして捉えたらいいか。

【山口委員】

- 基本のデッサン力や色彩力は絶対必要なので、取り入れていかなければいけないため、デジタルが全てとは思っていない。しかしながら、企業はデジタルが使えないと採用しないので、企業就職を考えるなら、基本を身につけてから、デジタルに移行していくのが一番いいと思う。

【くさか委員】

- 丸の内高校の先生と話したが、AIを使用することはオリジナリティではないので、AIの使用は考えていないとのこと。
学校としては、就職だけを考えている訳ではないということだったが、就職を考えると、AIを使いこなすことが必要だと感じた。

(事務局)

まんが甲子園は、これまでのA I の一律使用禁止から、条件付きで使って構わないことに今大会から変更した。

引率にA I の使い方をお聞きしたが、主に案出し等で使用したとのことだった。

学校現場でもA I の活用は常に進化していく中で、検討していく必要があり、大会運用でもA I の使い方等、引き続き、生徒に勉強してもらうことも考えながら進めていく必要がある。

協議事項 来年度のまんが甲子園について

<事務局より提案>

【中川委員】

○インタビューボードは、まんが甲子園のインタビューの時だけに使用するのか。

知事が記者会見する時に、後ろに置いておくなど他の活用はできないのか。

(事務局)

現行では、まんが甲子園の会場におけるインタビューボードという設定だが、協賛企業の皆さんが見たときに、どこまで魅力があるかは検討する必要がある。

【吉村委員】

○大会名に企業名が付くということは、県や市など行政が行うイベントでは珍しく、大胆ではないかと思うが、アレルギーはないか。イメージに合わない企業名が付いた時にどうか。

【松村委員】

○県も公共施設にネーミングライツを実施しているので問題無いと思うが、300 万円の協賛企業が複数社出てきたら、審査で1つの企業にするのか。また、NHKで企業名を放送できるのか。

(事務局)

300 万円以上協賛いただける企業1社を選定し、1回の大会ごとの単発を想定している。

NHKに確認したわけではないが、県民文化ホールも新来島高知重工ホールと放送していただいているので、問題無いと考えている。

【吉村委員】

○個人が応募してきた場合はどうか。個人ではなく、企業の方がいいのではないか。

(事務局)

ルールは定めていく必要がある。

県で実施しているネーミングライツの基準等も参考にしながら、高校生の大会にふさわしくない企業は対象外にするなど、審査基準は厳格に設けて募集をかけることを想定している。

○採用された企業に対する現場での取扱いはどうなるのか。丁寧に扱われたり、発言権を有するなど、特別扱いされるのか。

(事務局)

あくまでも募集する目的や内容・条件に基づいた取扱いに限る。

【山口委員】

○協賛金 300 万円は安いと思う。

一般社団法人は対象になるのか。

(事務局)

応募資格者については検討を進めていきたい。

金額は 300 万円が下限で、それ以上の金額を提示していただいたところに審査基準を当てはめて審査することになる。

その他 まんが甲子園第 35 回記念企画展について

<事務局より説明>

【松村委員】

○それぞれの大会毎のストーリーや歴史があると興味をもってもらいやすいと思う。

甲子園球場に甲子園歴史館があり、過去の出場校の名前を見ることができて感動したので、過去の出場校がわかる分かるようなキャプションがあればいいと思う。

(事務局)

各大会のトピックスはパネルで制作し、紹介予定。

歴代の受賞作品は、「まんが甲子園通り」（かるぼーと横の堀川沿い）にモニュメントを設置している。近くなので見ていただけるような工夫を考える。

【吉村委員】

○過去のポスターにキャプションを付けて展示してはどうか。時代の移り変わりが分かると思う。

○「まんさい」に、まんが王国・土佐ブースも出展するので、一部を展開していいのでは。「創作集団 C L A M P 制作の大会オリジナルイラストの展示」「本県にゆかりのあるまんが家関連資料の紹介・展示」と「まんが甲子園 35 年の歩み」の一部を持ってきて展開すればいい。

全体を通してのご意見

【木ノ下委員】

- まんが甲子園は、スムーズな運営で、高校生も交流ができてよい大会だった。
- 当日の来場者数や視聴者数が減っているなので、インターネットやリアルで事前の普及活動に注力をしていただきたい。

【成瀬委員】

- 第 35 回まんが甲子園を振り返って、高校生が全国の仲間やプロと関われる良い機会となり、スタッフも全国レベルの大会運営という貴重な経験が人生の糧となるのではないかと感じた。今後も時代に合わせて対応していただきたい。

【小野オブザーバー】

- 文化庁でもまんが関係の取り組みに力を入れていきたいと思っている。
来年度予算に向けて、クリエイターの育成支援で、まんが、アニメ分野も含め、クリエイター育成をしっかり支援していきたい。
都道府県が申請して、また学校や企業と連携して取り組めることも、支援の対象としている。もし何かご活用できることがあれば、ぜひご検討いただければ。
学校の部活動を地域展開していくという取り組みもしており、市町村が認定したクラブへの補助金ということで、もちろんまんがやアニメに関するクラブも審査対象になる。
また、芸術家の学校派遣や、小学校、中学校、高校の学習指導要領、学校で図工や美術で学ぶ内容を見直している。この中でも、まんがやアニメなど多様な芸術に親しむということを入れられないかと検討している。
- よさこい高知文化祭 2026 がまもなく開催。まんが甲子園第 35 回記念企画展及びまんさいは、関連行事として関わっていただくため、どうぞよろしくお願いしたい。

【広末委員】

- まんが甲子園の協賛で、帯屋町賞を渡しており、毎年生徒の熱意を感じているが、会場内だけで終了しているのが残念。露出をもっと広くしてほしい。
出場した学校の関係者は来ているが、来場していただけたらもっとワイワイ出来る。会場内だけで完全にクローズな大会になっているように感じてしまうので、まんがに関係ない人にもアピールし、もっと広がるようになったらいいと思う。

【大瀧委員】

- 今年初めてまんが甲子園をニコニコ動画で見たが、おそらく休憩中だったと思われる画面は何のプログラムを放送しているかが不明だった。

来年以降、テロップやスクリーン上にて、現在ほどのプログラムを放送中かを分かるようにできればいいと思う。

(事務局)

改善について検討していく。

○まんが甲子園は、なぜ毎年8月1週目の土日に開催しているのか。時期的に他の期間は開催が難しいのか。

(事務局)

開催日に関しては、学業がある中で、高校生が参加しやすい時期ということで夏休みとなっている。平日は、補習等もあり、日程を動かしにくい。

【池島委員】

○よさこい高知文化祭に向けての活動を進めている。

10月10日からは、県よさこい文化祭課主催のスーパー戦隊レジェンド歴史展を開催予定。

10月31日、11月1日は、まんさいを開催予定なので、中心商店街と流れを作っていきたい。

○横山隆一記念まんが館自体がまだ知られていないので、まずは知っていただく必要がある。

まんが甲子園第35回記念企画展をかるぽーとで実施していただくので、人の流れを作っていただき、横山隆一先生のことも知っていただきたい。

【今城委員】

○まんが甲子園の開催日程については、学校の補習、大会、よさこい等があるので、ここしかないと思う。冬休みは期間が短いし、春休みは先生の異動があるため、難しい。

<委員一同承認>

<閉会>